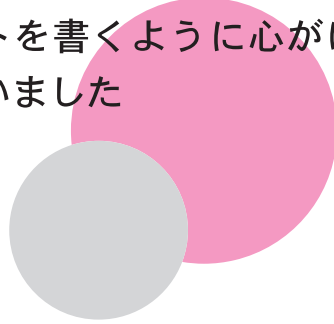


「だんらん」を以前、執筆していた人に話を聞いてみました。

自分の経験を振り返り、乳幼児期の子育てのポイントを書くように心がけていました



私は、現在は下米田小学校に勤務していますが、以前、学校教育課に勤務していた際、「だんらん」を2年間、それ以前の「家庭教育」も執筆していました。ですから、およそ4年間、執筆していたことになりましたね。

子育てに関して「あの時、あの人が聞いたことが役立つ」という思いがあり、「だんらん」を書くにあたっては自分の子育て経験を振り返り、乳幼児期の子育てのポイントを書くように心がけました。

特に0歳からの子育てが重要と言われていましたので、発達段階に応じた対応の仕方を具体的にまとめました。

若い母親が、「だんらん」を読んで、わかってくれるだろうか心配しな



▲井戸文美教諭

がらの執筆でした。

子どもの感性は、親の毎日の言葉かけや行動の連続で培われていきます。親が前向きな気持ちで暮らしていくことが大切であることを伝えてきました。

子育ては、また親を育ててくれるものです。いろいろな「ブンチャ」し「まつた」という経験を生かしながら、「自分でやりたい」という前向きな気持ちを大切に、わが子にいろいろな体験をさせてあげるといいと思います。

私が子どものころ、学校や遊びを終え、「家へ帰るとき」というのは、何かしら楽しい気持ちにあふれていた気がします。

祖母や両親、弟たちが待っていてくれて、私にとって家は「ほっと一息つける場所」だったのだと思います。

この「ほっと一息つける雰囲気は子どもたちに安心感や安定感を与える点で家族の大切な働きであり、しつけの原点といえるでしょう。」

家庭の大事な仕事である「しつけ」というのは生き方指導だと思っています。これを2つの角度から考えてみたいと思います。

一つは「個性を生かす」ということです。興味や関心あること、得意なことを追求させて認め励まし、自信を

つけてやりたいものです。

自信というのは個人として自律的、主体的に生きていく上で必要な条件の一つだからです。

二つめは「社会性を身につける」ということです。社会性は一員としての望ましいあり方のことです。

家庭ではまず、家族の一員として役割を与えてください。食器の片付け、洗濯物の片付けなど子どもができることはいくつもあります。

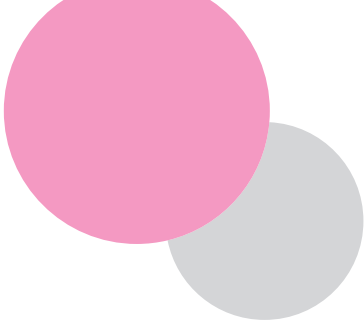
本紙の「だんらん」は家庭教育のあり方を皆さんとともに考えていけることを願っています。

私は今、「帰宅が楽しい家庭」を家族がつくってしてくれたことの意味をかみしめているところです。



▲高井厚 学校教育課長

「家庭」は生き方を学ばせる大切な場です



教育委員会から見た「だんらん」とは……

※おことわり
今月号は「だんらん」を特集した特別企画のため、「健康ファミリー」と「ちょっとひとこと」をお休みさせていただきました。ご了承ください。